

小野小学校親子読書会の活動

久木田 みどり

はじめに

「♪ てんやのおもち やらかいおもち
あんこちよいとふんで しかられた ♪」

読書会の例会は、おはなし会から始まる。みんなで手遊びをしたり、わらべうたを歌ったりして、絵本の読み聞かせに入る。当番が決まっております。当番の家族が絵本を選び練習をして例会で読み聞かせをしてくれる。様々な視点から絵本を選んで、読み方も違い楽しいおはなし会になる。「幸せなゆっくりとした時」が過ぎていく。

小野小学校親子読書会は、平成9年4月に発足した。活動のきっかけは、旧隼人町立図書館の主催事業で、平成8年に隼人町読書活動推進協議会が発足し、同年「隼人町心を育てる本も友達20分間運動」と題してシンポジウムが開催されたことである。「本好きの子どもを育てるために」をテーマにして、パネルディスカッションを行い、それをきっかけにして隼人町の各小学校では、保護者による読書活動が盛んになり始めた。小野小学校でも、「塾やスポーツ少年団で忙しい子どもにこそ、今一度本の楽しさを味わってほしい」「家に帰れば全く本の世界と無関係になる子どもたちにこそ本の楽しさを味わってほしい」という保護者の願いから活動はますます盛んになり、同時に、子どもたちにどのような本をどのように薦めていけば良いのかという声があがり、様々の研修会へ参加し、他の読書会との交流を積極的に行うようになった。学校側の協力もあり、発足に必要な会報やお知らせ等をスムーズに行うことが出来たことで、当初予定していた以上の会員をもって「小野小親子読書会」を結成することになったのである。

目的と成果

親子読書会の目的は、テーマ「親子読書を通じて、読書の楽しさを味わい本を好きになる」を目標に実施していくことである。少しでも多くの絵本（本）と出会い、感性豊かな子どもたちになってほしいと、親子・友達・地域との触れ合いを通して、みんなが心豊かになれるように活動している。具体的な活動としては、月に1回、第3土曜日の午後7時30分から午後9時まで、「おはなし会」や「工作」「作品作り」等様々な活動をしている。行事としては、緑陰読書・星空写真会・クリスマス会・学習発表会への参加・お別れ会・文集作成・隼人おはなし王国への参加・老人ホーム慰問・夏休みお話集会等を実施する。その年度の役員たちが工夫をして計画してくれた行事に参加しながら、個性溢れた行事に驚き毎回楽しみながら参加している。

成果としては、平成9年から活動してきて、平成16年に鹿児島県立図書館大会において「優良親子読書会」を受賞したことである。親子読書会とは地味な活動で、これを実施したからといって明日すぐに成果が見えるものではない。「親子で本を読む」という基本を大切に、少しずつ少しずつ積み重ねてきたものが、今色々な活動となって顕れている。例えば、学校での読書ボランティア（親）による朝の読み聞かせ活動（週に2回月曜日・金曜日に親子読書会員が中心となりクラスに入り15分間読み聞かせを実施）、学習発表会への親子読書会の参加（手作りの大型紙芝居やペープサート・ロールシアターを上演）等である。学校全体でも、本に対する意識が高まり、又本に触れ合う機会も増え、読書推進への活動が盛んになっている。言い換えれば「子どもたちへ本の世界への橋渡し（きっかけ作り）ができてきていること」、「子どもたちに本に興味をもってもらえるような環境作りができてきていること」、「大人も本の世界が楽しいということを理解し、本を読むこと」、「1人1役で個性を生かし、楽しみながら活動することで、できないができるに変わること」、「人と人とのつながりができ、楽しみながら友だち作りができること」、「家庭でも絵本を読む機会が増え、読書環境が良くなること」、「他の読書会の方々とも交流ができ、本などの情報が得られること」などがあげられる。そして、なんといっても「親子で本の世界を楽しむ」ことができることである。

小野小学校親子読書会の活動

今まで10年間、親子読書会にお世話になった。平成3年から、隼人町立図書館へ勤め始めて親子読書会の方たちと接する機会に恵まれた。本の大切さを知り、また知れば知るほど本の世界の重要性を感じ、何か出来ることはないかと、図書館での読書推進の事業を始めた。「おはなしの部屋」、「えほんとわらべうたの会」、読書関係者をお呼びしての講演会等様々の事業を展開し、その中に親子読書会の事業があった。子どもが生まれ、5ヶ月ぐらいから読み聞かせを始めた。親の楽しみで、たくさん絵本を読んだ。上の娘が幼稚園へ入った時、幼稚園の親子読書会を立ち上げた。今でもその親子読書会は、活発に活動を継続している。そして、小野小学校親子読書会へ入り仲間の輪を広げ、楽しく活動してきた。仕事柄様々なカラーの親子読書会や読書グループを見てきたが、どの読書会も個性があり特色があり、活動している人たちが輝いている。見ていて、力（パワー）をもらうことも多く本当に勉強になる。家庭での子どもたちは、「親子読書会には行きたくない」と言ったことは一度もなく、月1回の定例会を楽しみにしていた。それは、子どもたちにとって読書会が魅力的なものだったからではないだろうか。どんなに少年団で忙しくても、「読書会には必ず行くよ」と言っていた下の息子は、ソフトボール三昧の日々の中でもしっかりと本を読む時間を自分なりに確保しているようである。上の娘は大の本好きで、いつも片手に本を持ち中学校へと通っている。また、小学校の親子読書会の人手が足りない必ず手伝いをしてくれる。生活の中に親子読書が入り込んでいる証拠である。「本を読みなさいと言わなくても、本の世界を楽しんでいる」のは、10年間親子読書会を続けてきた成果ではないだろうか。

今後の課題

課題としては、第一に今の忙しい時代には、やはり読書会会員の確保が難しいと感じることである。塾やスポーツ少年団等で子どもたちは忙しく、また親も忙しい日々を過ごしている。ただ、そんな世の中にこそ「親子読書会」のようなゆっくりとした時間を過ごせる「とき」が必要なのではないかと考える。忙しい世の中で、「ほっと一息つけるとき」を親子読書会で見つけて欲しい。

第二に、読書会定例会の内容の充実である。マンネリ化しては楽しく

ない。それぞれの会員が役員になったら個性を生かし、定例会を盛り上げて欲しい。第三に、一人一人が楽しく無理をしないで子どもと本の触れ合いの時間を持つことである。いつも思うことであるが、「～しなければならない」ではなく、楽しんで一緒に「～しよう」である。親が無理をしていると、子どもも無理をする。親が楽しんでいると子どもも楽しいはずである。第四に、「本は楽しい」ということを子どもたちに気づいてもらえるようなきっかけ作りが出来ることである。子ども時代に「楽しい」と思う本に出会った子どもは、ずっと本の世界から離れない。そこに至らない子どもたちの多いこと多いこと…。だから周りが少し手助けをして、本の世界への環境を整えてやると、子どもたちは楽しい本と必ず出会うことが出来る。

仕事上でも、親子読書会で学んだことは数多くある。1冊の絵本の読み聞かせでも、実際に読んでみると子どもの反応は様々で、自分が思っていた反応が返ってこなかったりする。それも勉強で、次はこの本を、次はこういう感じで読もうと1冊に対して工夫を凝らす。実際読んでみないと子どもの生の手ごたえは感じられない。それが積み重なって日々の仕事の中でも生かされ、今の自分がある。本当に奥の深い仕事だと感じる。それを感じれば感じるほど、もっと勉強しなければいけないと日々思う。子どもたちへ本を少しでも多く届けたいという気持ちは、親子読書会でも仕事上でも同じで、それはこれからも継続していきたい。

おわりに

私事であるが、今年で親子読書会が最後になる。下の息子が小学校卒業だからである。親子読書会は今年度で卒業になるが、これからも小野小学校親子読書会は、楽しく無理をしないで「できること」を中心に活動していきたい。たくさん子どもたちに、たくさん本が届くように祈りながら…。「本は楽しい」そう感じられる子どもたちが増えることを願って、そして、「魅力的な読書会」へたくさん子どもたちが参加できますように…。

(小野小学校親子読書会会員)